

認 定 書

国 住 指 第 3 6 6 9 号
平成 31 年 2 月 28 日

一般社団法人日本壁装協会
代表理事 安田 正介 様

国土交通大臣 石井 啓一



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 1 条第五号及び第 108 条の 2 第一号から第三号まで（準不燃材料）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
QM-0951
2. 認定をした構造方法等の名称
塩化ビニル樹脂系壁紙張／基材（準不燃材料及び不燃材料（金属板を除く））
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 材料名

塩化ビニル樹脂系壁紙張／基材（準不燃材料及び不燃材料（金属板を除く））

2. 形状及び寸法等

項 目	仕 様
形 状	平板
表 面 形 状	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様又は組合せとする (1)平滑 (2)粗面 (3)エンボス
表面化粧材の 厚さ(mm)	5.0 _{±0.5} 以下
表面化粧材の 質量(g/m ²)	700.0 _{±70.0} 以下

3. 材料構成

項 目	仕 様																	
表 面 化 粧 材	塩化ビニル樹脂系壁紙																	
	・ 厚さ $5.0_{\pm 0.5}$ mm以下																	
	・ 質量 $700.0_{\pm 70.0}$ g/m ² 以下(有機質量 $312.0_{\pm 31.2}$ g/m ² 以下)																	
	・ 構成																	
	[1]化粧：(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする																	
	(1)合成樹脂、印刷インキ																	
	・ 質量 $20.0_{\pm 2.0}$ g/m ² (固形量)以下(有機質量 $3.0_{\pm 0.3}$ g/m ² 以下)																	
	・ 構成(g/m ²)																	
	<table border="0"> <tr> <td>合成樹脂^{※1} 合成樹脂インキ^{※2}.....</td><td>$3.0_{\pm 0.3}$以下</td></tr> <tr> <td colspan="2">(但し、ポリエステル系は$2.0_{\pm 0.2}$以下とする)</td></tr> <tr> <td>無機質系充てん材、無機質系顔料^{※3}、無機質系添加剤^{※4}.....</td><td>$0\sim 17.0_{\pm 1.7}$</td></tr> </table>	合成樹脂 ^{※1} 合成樹脂インキ ^{※2}	$3.0_{\pm 0.3}$ 以下	(但し、ポリエステル系は $2.0_{\pm 0.2}$ 以下とする)		無機質系充てん材、無機質系顔料 ^{※3} 、無機質系添加剤 ^{※4}	$0\sim 17.0_{\pm 1.7}$											
	合成樹脂 ^{※1} 合成樹脂インキ ^{※2}	$3.0_{\pm 0.3}$ 以下																
(但し、ポリエステル系は $2.0_{\pm 0.2}$ 以下とする)																		
無機質系充てん材、無機質系顔料 ^{※3} 、無機質系添加剤 ^{※4}	$0\sim 17.0_{\pm 1.7}$																	
(2)なし																		
[2]主素材 塩化ビニル系樹脂																		
・ 厚さ $3.8_{\pm 0.4}$ mm以下																		
・ 質量 $632.0_{\pm 63.2}$ g/m ² 以下 ^{※5} (有機質量 $244.0_{\pm 24.4}$ g/m ² 以下 ^{※6})																		
・ 構成(g/m ²) ^{※5}																		
<table border="0"> <tr> <td>塩化ビニル樹脂.....</td><td>$200.0_{\pm 20.0}$以下</td></tr> <tr> <td>可塑剤^{※7}.....</td><td>$81.9_{\pm 8.2}$以下</td></tr> <tr> <td colspan="2">(減粘剤、有機質系顔料^{※8}を$0\sim 4.7_{\pm 0.5}$含む)</td></tr> <tr> <td>有機質系安定剤(亜鉛系化合物).....</td><td>$7.7_{\pm 0.8}$以下</td></tr> <tr> <td>有機質系発泡剤(アゾジカルボンアミド系、オキシスベンゼンスルホニトリド^{※9})</td><td>$0\sim 20.0_{\pm 2.0}$</td></tr> <tr> <td>添加剤(防かび剤、抗菌剤、機能性付加剤).....</td><td>$0\sim 12.2_{\pm 1.2}$</td></tr> <tr> <td>無機質系材料、無機質系充てん材、無機質系顔料^{※3}、無機質系添加剤^{※4}</td><td>$26.3_{\pm 2.6}\sim 310.8_{\pm 31.1}$</td></tr> <tr> <td>水酸化アルミニウム.....</td><td>$77.2_{\pm 7.7}$以下</td></tr> <tr> <td colspan="2">(但し、主素材における有機質量合計の$31.7_{\pm 3.2}\%$以上とする)</td></tr> </table>	塩化ビニル樹脂.....	$200.0_{\pm 20.0}$ 以下	可塑剤 ^{※7}	$81.9_{\pm 8.2}$ 以下	(減粘剤、有機質系顔料 ^{※8} を $0\sim 4.7_{\pm 0.5}$ 含む)		有機質系安定剤(亜鉛系化合物).....	$7.7_{\pm 0.8}$ 以下	有機質系発泡剤(アゾジカルボンアミド系、オキシスベンゼンスルホニトリド ^{※9})	$0\sim 20.0_{\pm 2.0}$	添加剤(防かび剤、抗菌剤、機能性付加剤).....	$0\sim 12.2_{\pm 1.2}$	無機質系材料、無機質系充てん材、無機質系顔料 ^{※3} 、無機質系添加剤 ^{※4}	$26.3_{\pm 2.6}\sim 310.8_{\pm 31.1}$	水酸化アルミニウム.....	$77.2_{\pm 7.7}$ 以下	(但し、主素材における有機質量合計の $31.7_{\pm 3.2}\%$ 以上とする)	
塩化ビニル樹脂.....	$200.0_{\pm 20.0}$ 以下																	
可塑剤 ^{※7}	$81.9_{\pm 8.2}$ 以下																	
(減粘剤、有機質系顔料 ^{※8} を $0\sim 4.7_{\pm 0.5}$ 含む)																		
有機質系安定剤(亜鉛系化合物).....	$7.7_{\pm 0.8}$ 以下																	
有機質系発泡剤(アゾジカルボンアミド系、オキシスベンゼンスルホニトリド ^{※9})	$0\sim 20.0_{\pm 2.0}$																	
添加剤(防かび剤、抗菌剤、機能性付加剤).....	$0\sim 12.2_{\pm 1.2}$																	
無機質系材料、無機質系充てん材、無機質系顔料 ^{※3} 、無機質系添加剤 ^{※4}	$26.3_{\pm 2.6}\sim 310.8_{\pm 31.1}$																	
水酸化アルミニウム.....	$77.2_{\pm 7.7}$ 以下																	
(但し、主素材における有機質量合計の $31.7_{\pm 3.2}\%$ 以上とする)																		
[3]裏打材 ^{※9}																		
・ 厚さ $0.5_{\pm 0.1}$ mm以下																		
・ 質量 $150.0_{\pm 15.0}$ g/m ² 以下(有機質量 $65.0_{\pm 6.5}$ g/m ² 以下)																		
・ 構成(g/m ²) (1)又は(1)と(2)を組合せた仕様とする																		
(1)有機質 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする																		
<table border="0"> <tr> <td>1)有機繊維^{※10}.....</td><td>$65.0_{\pm 6.5}$以下</td></tr> <tr> <td colspan="2">(但し、合成樹脂系繊維^{※11}とその他の有機質系繊維を組合せて使用する場合は、合成樹脂系繊維^{※11}を$15.6_{\pm 1.6}$以下とし、かつ有機質量を$52.0_{\pm 5.2}$以下とする。)</td></tr> <tr> <td>2)合成樹脂^{※1}.....</td><td>$8.8_{\pm 0.9}$以下</td></tr> <tr> <td>有機繊維^{※10}.....</td><td>$46.0_{\pm 4.6}$以下</td></tr> <tr> <td colspan="2">(但し、合成樹脂^{※1}を使用する場合、有機質量を$47.0_{\pm 4.7}$以下とする。有機繊維として合成樹脂系繊維^{※11}とその他の有機質系繊維を組合せて使用する場合、合成樹脂系繊維^{※11}は$1.0_{\pm 0.1}\sim 16.6_{\pm 1.7}$とする。)</td></tr> </table>	1)有機繊維 ^{※10}	$65.0_{\pm 6.5}$ 以下	(但し、合成樹脂系繊維 ^{※11} とその他の有機質系繊維を組合せて使用する場合は、合成樹脂系繊維 ^{※11} を $15.6_{\pm 1.6}$ 以下とし、かつ有機質量を $52.0_{\pm 5.2}$ 以下とする。)		2)合成樹脂 ^{※1}	$8.8_{\pm 0.9}$ 以下	有機繊維 ^{※10}	$46.0_{\pm 4.6}$ 以下	(但し、合成樹脂 ^{※1} を使用する場合、有機質量を $47.0_{\pm 4.7}$ 以下とする。有機繊維として合成樹脂系繊維 ^{※11} とその他の有機質系繊維を組合せて使用する場合、合成樹脂系繊維 ^{※11} は $1.0_{\pm 0.1}\sim 16.6_{\pm 1.7}$ とする。)									
1)有機繊維 ^{※10}	$65.0_{\pm 6.5}$ 以下																	
(但し、合成樹脂系繊維 ^{※11} とその他の有機質系繊維を組合せて使用する場合は、合成樹脂系繊維 ^{※11} を $15.6_{\pm 1.6}$ 以下とし、かつ有機質量を $52.0_{\pm 5.2}$ 以下とする。)																		
2)合成樹脂 ^{※1}	$8.8_{\pm 0.9}$ 以下																	
有機繊維 ^{※10}	$46.0_{\pm 4.6}$ 以下																	
(但し、合成樹脂 ^{※1} を使用する場合、有機質量を $47.0_{\pm 4.7}$ 以下とする。有機繊維として合成樹脂系繊維 ^{※11} とその他の有機質系繊維を組合せて使用する場合、合成樹脂系繊維 ^{※11} は $1.0_{\pm 0.1}\sim 16.6_{\pm 1.7}$ とする。)																		
(2)無機質																		
無機質系充てん材 ^{※3} $0\sim 120.0_{\pm 12.0}$																		
<p>※1：合成樹脂は、エチレン・酢酸ビニル系、酢酸ビニル系、ウレタン系、アルコキシラン加水分解縮合物系、塩化ビニル系、アクリル系、アクリルエチレン系、シリコン系、ポリエステル系、フッ素系、ワックス系、ニトリル系、エチレン・グリコール系、マリン酸系、のいずれか、又は組合せとする。</p>																		

項 目	仕 様
表面化粧材 (つづき)	<p>※2: 合成樹脂インキは、アクリル系、塩化ビニル系、ウレタン系、ニトロセルロース系、酢酸ビニル系、エチレングリコール系のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※3: 無機質系材料、無機質系充てん材、無機質系顔料は、酸化チタン、酸化鉄、酸化亜鉛、カーボンブラック、マイカ、炭酸カルシウム、タルク、水酸化アルミニウム、水酸化マグネシウム、三酸化アンチモン、硝酸亜鉛、シリカ、ガラス、金属(箔、粉、糸状)、鉱物粒及び鉱物粉のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※4: 無機質系添加剤は、シリカ、光触媒酸化チタン、無機質系抗菌剤、無機質系機能性材料のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※5: 質量及び組成は、加工時に可塑剤、減粘剤、発泡剤が揮発により減量するため、配合質量及び配合組成とする。</p> <p>※6: 有機質量は、加工時に可塑剤、減粘剤、発泡剤等が揮発等により減量するため、配合有機質量とし、配合組成中の有機質を組合せた配合量合計とする。</p> <p>※7: 可塑剤は、フタル酸系、テレフタル酸系、イソフタル酸系、アジピン酸系、ポリエステル系、DINCH系、エポキシ系、有機りん系、塩素化パラフィン系、トリメチル酸系のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※8: 有機質系顔料は、アゾ系顔料、フラジオン系顔料、縮合多環系顔料、合成樹脂^{※1}系顔料のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※9: 裏打材は、紙、無機質紙、不織布 (non woven paper) のいずれかとする。</p> <p>※10: 有機繊維は、パルプ、レーヨン、綿、麻、スフ、キュブラ、アセート、セルロース系繊維、合成樹脂系繊維^{※11}のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※11: 合成樹脂系繊維は、ナイロン、ビニロン、ビニリデン、ポリ塩化ビニル、ポリエステル、アクリル、ポリウレタン、ポリビニリアルコール、ポリエチレンのいずれか、又は組合せとする</p>
接着剤及び シーラー	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量 $60_{\pm 6}\text{g}/\text{m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量 $60_{\pm 6}\text{g}/\text{m}^2$ 以下) ・ 構成 以下の[1]又は[1]と[2]を組合せた仕様とする <ul style="list-style-type: none"> [1]でん粉系接着剤 <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量 $60_{\pm 6}\text{g}/\text{m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量 $60_{\pm 6}\text{g}/\text{m}^2$ 以下) ・ 組成(質量%) <ul style="list-style-type: none"> でん粉のり 80 以上 補強剤^{※12} 20 以下 (又は補強剤なし) [2]シーラー：合成樹脂^{※13} <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量 $10_{\pm 1}\text{g}/\text{m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量 $10_{\pm 1}\text{g}/\text{m}^2$ 以下) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量 $40_{\pm 4}\text{g}/\text{m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量 $40_{\pm 4}\text{g}/\text{m}^2$ 以下) ・ 構成 以下の[1]又は[1]と[2]を組合せた仕様とする <ul style="list-style-type: none"> [1]メチルセルロース系接着剤 <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量 $40_{\pm 4}\text{g}/\text{m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量 $40_{\pm 4}\text{g}/\text{m}^2$ 以下) ・ 組成(質量%) <ul style="list-style-type: none"> メチルセルロース 80 以上 補強剤^{※12} 20 以下 (又は補強剤なし) [2]シーラー：合成樹脂^{※13} <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量 $10_{\pm 1}\text{g}/\text{m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量 $10_{\pm 1}\text{g}/\text{m}^2$ 以下) <p>※12: 補強剤はエチレン酢酸ビニル樹脂エマルジョン、酢酸ビニル樹脂エマルジョンのいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※13: 合成樹脂は、アクリル樹脂エマルジョン(アクリル酸エステル共重合体エマルジョン、メタクリル酸エステル共重合体エマルジョン)、エチレン酢酸ビニル樹脂エマルジョン、酢酸ビニル樹脂エマルジョンのいずれか、又は組合せた仕様、又はシーラーなしとする。</p>

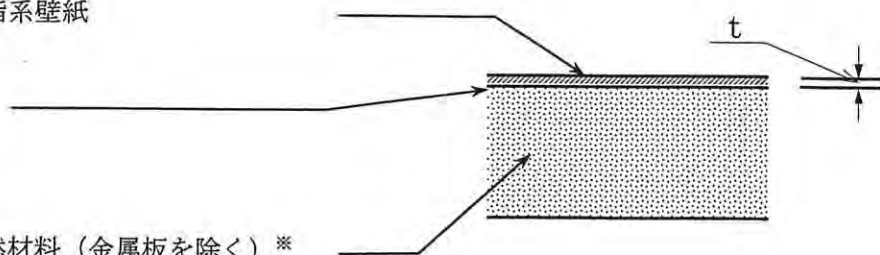
項 目	仕 様
基 材	準不燃材料及び不燃材料（金属板を除く） 平成 12 年建設省告示第 1401 号第 1 第二号から第六号に例示された準不燃材料及び告示第 1400 号に例示された鉄鋼、金属板、アルミニウムを除く不燃材料のうち、すでに化粧を施されたものを除くもの

4. 構造説明図(寸法単位：mm)

1) 表面化粧材…塩化ビニル樹脂系壁紙

2) 接着剤及びシーラー

3) 基 材…準不燃材料及び不燃材料（金属板を除く）※



$t = 5.0$ 以下

※平成 12 年建設省告示第 1401 号第 1 第二号から第六号に例示された準不燃材料及び告示第 1400 号に例示された鉄鋼、金属板、アルミニウムを除く不燃材料のうち、すでに化粧を施されたものを除くもの